



教育全国署名～全支部が取り組みました! 全釧路で1770筆 (退職教717筆を含む)

▼教育署名に全支部で取り組みました！～署名に取り組む意味

教育全国署名の取り組み状況について、支部代表者会議の場で交流しました。今年は「これまでの取り組みから一步前進させよう」と、各支部で工夫した取り組みがなされました。そして、全支部から署名が届いています。一人分会が多くなり、学校も多忙化する中で、署名に力を注ぐ余裕がだんだん少なくなってきているため、ここ数年は取り組めない支部もいくつかありました。それでも、今年は一歩踏み出し、全支部で取り組めたことが、大きな成果です。

なかなか署名に取り組む余裕もない。そうした多忙化の解消には、抜本的な教育条件整備が不可欠です。署名の取り組みを通して職場や地域とつながり、教育環境改善の思いを広げていくことは、多忙化の解消の点でも大きな意味があります。そして、釧路の教育において、組合の存在感をより高めていくことにもなります。



▼各支部の工夫した取り組み～少人数支部でも、無理なく、できることから

鶴居支部では、チラシと署名用紙をクリアファイルに入れて地域の方をお願いをする取り組みを初めて3年目になります。継続することで、地域の方も「あの署名だね」と言って近所をまわってくれるようになり、10筆集めてくれる家も多いそうです。また、職場で署名をお願いする時には、分会だよりも発行して署名の意義を伝えています。一人支部の鶴居ですが、この取り組みで今年123筆もの署名を集めることが出来ました。

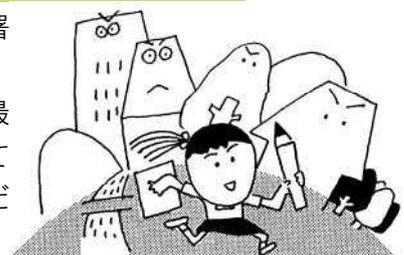
標茶支部でも、地域をまわっているいろいろな施設に署名のお願いをしています。毎年継続してきたことで、学校の署名としてとても協力してもらえます。以前、支部の人数が多かった時には地域の1軒1軒をまわっていたのですが、少人数支部となった今では規模の大きな施設をお願いすることで、無理なく取り組んでいるといいます。標茶支部では、202筆の署名を集めました。

この他、職員打合せで訴えてから回したことでより多くの協力を得られた分会、転勤をしたばかりでまずは職場で取り組んだが地域がとても協力的なので今後は地域にも呼びかけたいという分会など、各支部の取り組みや思いを交流しました。

▼教育全国署名の最終集約は2月25日まで～手元にある署名は本部まで

全釧路で1770筆(12月15日現在)、全道では13241筆(12月11日現在)の署名が集まりました。全国での集約集会は、12月14日に行われました。

今後、道議会提出の最終締め切りが1月20日(金)、文科省提出の全教最終集約が2月25日(木)となっています。まだ手元にある署名、預けていて後から届いた署名などがありましたら、本部まで送ってください。まだ間に合います。



定期大会の総会化について～支部代表者会議の議論から

昨年の定期大会で組合の総会化に向けて規約改正を行い、その具体化についてこれまで各支部、執行部で議論を進めてきました。この総会化の提案理由について、昨年定期大会の5号議案に次のように書かれています。

組織率が低下していく中、組織をより強固なものにするためにも全組合員が一堂に会して話し、交流しあう場が今こそ必要になってきており、定期大会はその絶好の機会と言えます。今の規模になったからこそ、全組合員が集まることが可能になったのであり（中略）組織の強化のためにも「集まる」ことの重要性を改めて確かめ合い、この規約改正を組織強化拡大の再出発としたいと考えます。

12月4日には、各支部の支部長、書記長が集まり、各支部で検討された意見を持ち寄って、その具体化について議論しました。組織強化のために「集まる」ことを大切に、「土曜9時～13時の半日日程で行う」「分散会は行わない」と決定しました。これまで1日日程で行っていた定期大会を半日日程で行うための内容の詳細については、執行部で検討し決定します。

釧路労連平前事務局長の退任慰労会

釧路労連結成時から事務局長を務め、専従として長年にわたって釧路の労働運動を牽引してきた平さんが釧路労連事務局長を退任しました。12月11日（金）には、平さんの退任慰労会が労働センターで行われました。全釧路教組からは7名が参加しました。釧路労連の執行部で関わりの深い山川先生が感謝と激励の挨拶をしました。



▼「かもつれっしや」（有馬敲）～順調に進み始めた時の心地よさ

かもつれっしや
 がちゃん がちゃん がちゃん
 がちゃん がちゃん がちゃん
 がちゃああん がちゃああん
 がったん ごっとなん ごっとなん
 ごっとなん ごっとなん ごっとなん
 がったん ごっとなん ごっとなん
 ごっとなん ごっとなん ごっとなん
 がったん ごっとなん
 ごっとなん
 がた ごた ごた
 がた ごた ごた
 がた ごた
 かた こと かた こと
 かたことかたことかたことかたこと
 かたことかたことかたことかたこと



有馬敲

最近まで小3の教科書にも載っていた詩です。オノマトペ(音声による喩え)のみで構成された詩です。これは、貨物列車がレールを走る音を語り手が聞いて感じたように、オノマトペで表しているのです。

初連は、これから走り始めようとする時です。「がちゃああん」と、とても重苦しいイメージです。二連は、ようやく動き始めます。ここでも「がったん」「ごっとなん」と、重々しい響きです。

それが、スピードが出るにつれて軽やかになり、五連では「かたこと…」と心地良い、楽しいイメージになっていきます。

このイメージは、私たちが物事を進める時のイメージとも重なります。

例えば、教育署名の取り組みも、気張って

取り組もうとすると、重苦しく、なかなか腰が上がりません。それが、鶴居支部や標茶支部のような数年の取り組みの積み重ねの上に、多くの協力を得て順調に進むことができます。順調に進めることができると、組織強化にもなり、取り組み私たちも元気になることができます。その意味では、今年、すべての支部で教育署名に一步踏み出せたということは、今後につながる大きな意味があるのです。

定期大会の総会化も、1年以上の議論を積み重ねている、初連と同じ段階です。まずはみんなで参加をしましょう。一步踏み出しましょう。そのための半日開催です。一步一步踏み出し、年に一度みんなが集まる場として定着すると、元気が出てきます。